

ベテラン教員研修講座(小学校)

茨城県教育研修センター
教職教育課
☎0296-78-3212(直通)
平成30年12月7日発行



第1日 10月2日実施

資質向上指標第4期(貢献・深化期)に設定

～学校のマネジメントを強化し、コンプライアンス意識を高める～

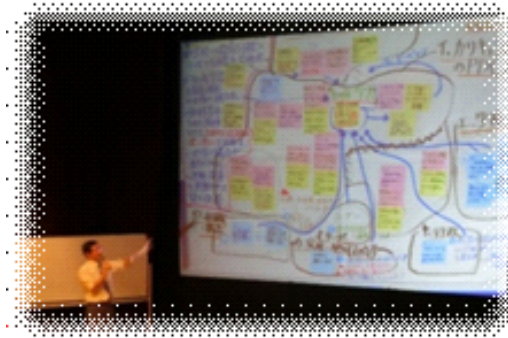
茨城県教育委員会では、資質向上指標に基づいて、採用から退職に至るまでを四つのキャリアステージに分け、それぞれのキャリアステージに研修を設定しました。その第4期に新設したのが「ベテラン教員研修講座」です。40代の教員は全国的に人数が減少傾向にあります。そのため、この研修の一つ目の目標は、校長や教頭といった管理職をサポートしながら、若手や中堅の教員を指導・助言する学校マネジメントの中核的存在に引き上げていくことです。二つ目の目標は、近年課題となっているコンプライアンス意識の高揚です。

第1日目のテーマは学校マネジメントです。講義『これからの学校に求められるベテラン教員の役割』では、「学校教育目標を達成するために、若手・中堅教員等への指導・助言を通して組織を活性化してほしい。」という話がありました。続いての講義『これからの時代に求められる資質・能力を育成する学習指導』では、「ベテランの先生方には、「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった授業改善を目指してほしい」という話がありました。『カリキュラム・マネジメントの推進』では、カリキュラムを中核に据え、教育目標を具現化するポイント見いだす事の大切さについて学びました。

学校全体に関わるマネジメントに関する講義と演習を通して、学校内の中核的なリーダーとしての自覚と意識を高めてもらう研修になりました。



大妻女子大学榊山敏郎准教授の講義「これからの時代に求められる資質・能力を育成する学習指導」



明星大学吉富芳正教授の講義・演習「カリキュラム・マネジメントの推進」

<受講者のアンケートより>

- ・今まで組織の中であまりベテラン教員という意識をしていませんでした。この研修を受けて、ただ組織の中の一員として存在しているだけではないということに気がきました。若手や中堅教員の先生方と一緒に考え、学んでいく姿勢を大切にしながら、指導・助言もできる教員になっていきたいと思いました。
- ・「ベテラン」と言うと、「何でもできる、頼れる、・・・」まだまだ先の話だと思っていました。これからは自分の事だけでなく、学校全体を考えることや若手教員を育てていくことを考えていかなければならないということが分かりました。意識を変え、子どもたちのために頑張りたいと思います。

ベテラン教員研修講座(小学校)

茨城県教育研修センター
教職教育課
☎0296-78-3212(直通)
平成30年12月7日発行



第2日 11月2日実施

コンプライアンス意識の高揚

不祥事を起こした場合の生涯賃金の損失額を知る！

第2日目のテーマは「コンプライアンス」です。

講義『教職員の信用失墜行為』では、義務教育課人事担当管理主事より「不祥事により処分された職員のその後の生活は、学校や地域、そして家族にも影響が出ます。処分された教職員の名前は、ずっとインターネット上に残ってしまう。」という話がありました。

また演習『教職員の生活設計』では、ファイナンシャルプランナーの資格をもつ公認会計士・税理士の講義では、懲戒処分を受けてしまうと、その処分によってどれくらい年収が減るのか、生涯賃金がどれくらい減るのかを説明しました。懲戒免職の場合、生涯収入で約1億円の差が出ることもあります。もちろん退職金も出ない上、年金も減ります。

さらに、講義・演習『学校の危機管理』では、裁判例の動向から、経験に基づく教員の判断ミスによる訴訟事例を学びました。講師の坂田先生からは、「経験ではなく、科学に裏打ちされた危機管理について考えてほしい。」という話がありました。ぜひ、この研修の内容を学校内で共有し、学校全体でコンプライアンス意識を高め、不祥事が根絶される効果を期待しています。

センターでの集合研修の後、ベテラン教員研修講座を受けた先生方が、勤務校で研修講師を務め、校内研修を行う予定です。当センターでは、指導主事がいくつかの学校の校内研修を参観させていただき、今後のプログラムの改良に結び付け、PDCAサイクルを回し、さらによりよい研修にしていきたいと考えています。



谷田部博貴公認会計士・税理士の演習「教職員の生活設計」



日本女子大学坂田仰教授の講義・演習「学校の危機管理」

<受講者のアンケートより>

- ・教員は『お金と法律に弱い』という事を実感することができました。今まで自分に足りない面だった事すら気付けずにいました。大変貴重な時間になりました。
- ・日々児童の安全を守る努力はしているつもりでいますが、自分の認識は甘かったと思いました。これまで大きな事故が起きていなかったのは奇跡に近いのだと思いました。これからの学校生活が怖くなりましたが、もっと緊張感をもって児童と過ごしていきます。
- ・時代や社会の変化に合わせて、自分自身の考え方や対応の仕方を変えていかなければならないという意識が高まりました。